

<2021年1月2日(3日)の司令官のYouTubeメッセージ>

救世軍は1862年にウィリアム・ブースが東ロンドンに入り、ブラインドベガーというパブの前で路傍伝道を行ったことから始まりました。そこには今、救世軍の創立を記念してブースの彫像が立っています。しかし、救世軍の本当の起源は、イエス・キリストにまでさかのぼります。救世軍の使命、それは、外に出て行き、人々をイエスのもとに導くことにあります。マタイ福音書を見ると、イエスはある日、宴会に招かれて、そこで、たとえ話をしました。それは、主人によって大きな宴会が開かれ、そこに人々を連れて来るために、外に出て行った、というたとえ話でした。これは、当時の宗教家であるファリサイ派の律法学者たちに向けられたもので、社会の中で追いやられている人たちを招き、手を差し伸べる必要がある、と訴える内容でした。いま、コロナのために世界中で多くの人々が困難を経験し、苦しみの中にあります。その中で、わたしたちもまた無力感を経験し、自分には人を助けることができない、と感じることがあるかもしれません。しかし、救世軍は常に外に出て行き、人々に手を差し伸べ、イエスのもとに導く、という使命を与えられていることを、もう一度思い出していただきたいのです。わたしたちが神に信頼し、外に出て行き、人々に手を差し伸べるときに、もしかしたら、拒絶される経験をするかもしれません。しかし、わたしたちが出て行くときに、聖霊がわたしたちに力を与えてくださいます。御言葉に「通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ」とあります。どうか、この御言葉から、聖霊によって心の迫りを受けて、外に出て行くことの緊急性を感じてくださいますように。そして、神が招いておられる素晴らしい天国の宴会に、多くの人をお連れすることができますように。そこには、罪の赦し、無条件の恵み、真実な喜びが満ちているのです。